



君津市



林野庁



イオン環境財団

2022年10月28日
君津市
林野庁関東森林管理局
公益財団法人イオン環境財団

11月6日（日）第3回「君津イオンの森づくり」を実施

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役 代表執行役会長以下当財団）、君津市（市長 石井宏子）、林野庁関東森林管理局（局長 赤崎暢彦）は、11月6日（日）に第3回「君津イオンの森づくり」を実施します。

イオン環境財団は、森林の再生を目指し、2020年12月に林野庁国民参加の森づくり活動における「モデルプロジェクトの森」として、林野庁関東森林管理局と協定、君津市と覚書を締結しました。本協定に基づき「君津イオンの森づくり」を推進し、植樹をはじめ下草刈り等の森林の保全活動を実施しています。

過去2回の植樹では、のべ410名のボランティアの皆さまとともに、君津市の花であるミツバツツジをはじめとする地域の自生種3,440本の植樹を実施しました。今回は、5カ年計画の3回目の植樹として、570名のボランティアの皆さまとミツバツツジ、ヤマザクライロハモミジ等12種類、3,000本の植樹を実施します。

また、森の再生と様々な森林体験ができるよう、有識者や専門家がゾーニングを行い、地域ボランティアのみなさまと共に、森の整備などの体験を通して、森とのふれあいや環境教育の機会を創出します。その他学術的な観点から、現在苗木の成長にあわせ、千葉大学大学院は、陸域・水域の緑地環境を構成する動植物や土壌・水の生物学的・生態学的研究を基礎に、緑地環境資源の利用と保全ならびに循環の技術等の研究を行っています。

三者は、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、今後も植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日時	2022年11月6日（日） 10:30～12:30		
場所	千葉県君津市戸崎2650番1 戸崎国有林「君津イオンの森」		
本数	3,000本		
参加者	570名		
樹種	ミツバツツジ・ヤマザクラ・イロハモミジ等 12樹種		
主催	君津市・林野庁関東森林管理局・公益財団法人イオン環境財団		
協力	千葉大学・千葉県森林研究所・企業組合千葉県森林整備協会・千葉県森林組合 イオンクレジットサービス株式会社・イオンリテール株式会社 イオンレーヴコスメ株式会社・イー・シー・エス債権管理回収株式会社 まいばすけっと株式会社・マックスバリュ関東株式会社		
出席者 （予定）	君津市 林野庁関東森林管理局 イオンリテール株式会社 イオンリテール株式会社 マックスバリュ関東株式会社 まいばすけっと株式会社 公益財団法人イオン環境財団	市長 局長 代表取締役社長 取締役 常務執行役員 南関東カガニ支社長 代表取締役社長 代表取締役社長 専務理事	石井 宏子 様 赤崎 暢彦 様 井出 武美 浜口 好博 島田 論 岩下 欽哉 山本 百合子

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

公益財団法人イオン環境財団 降旗・田沼 TEL: 043-212-6022

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業を中心に活動に取り組んでいます。今後は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組みます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。

当財団の植樹を含むイオン全体の植樹の累計本数は、1991年のスタートから数えて約1,241万本（2022年2月末時点）となります。

本年、当財団は、北海道南富良野町、宮城県石巻市、石川県金沢市、千葉県君津市、九十九里浜（予定）、滋賀県甲賀市、宮崎県綾町、で植樹を行いました。

海外では、香港・インドネシア・ジャカルタで植樹を実施しています。

■第1回「君津イオンの森づくり」

2021年4月16日（金）に植樹地にて入山式を行い、17日（土）に植樹を実施しました。



入山式



植樹地（植樹前）



植樹の様子

■第2回「君津イオンの森づくり」

2021年10月31日（日）に2回目の植樹を実施しました。



開会式（君津市石井市長）



植樹の様子



参加者記念撮影

■千葉県における森づくり

2013年～2015年 浦安市植樹

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を実施しました。2013年から2015年の3年間の活動を通じ2,100名のボランティアの皆さまと合計18,000本を植えました。

2016年～2018年 千葉市植樹

2016年に、千葉市富田都市農業交流センターで、第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域ボランティアの皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちを含め、1,200名のボランティアの皆さまとクヌギ、コナラ、ヤマザクラなどの広葉樹8,000本を植えました。第2回は2017年に、第3回は2018年に泉自然公園（千葉市若葉区）で、野鳥の森の再生を目指し、植樹を実施しました。2年間で1,600名のボランティアの皆さまと合計17,000本を植えました。

2019年～ 九十九里浜植樹

松くい虫被害や湿地化により疎林化が進み、また東日本大震災では津波被害にも遭った、千葉県九十九里浜地区の海岸県有保安林において、災害にも強い海岸防災林の再生を目指し、千葉県「法人の森事業」に賛同し、3カ年計画で植樹を行っています。1回目は、2019年11月に山武市民ならびに県内外のボランティア計1,000名の皆さまとともに、抵抗性クロマツやマサキなど10,000本の苗木を植えました。2回目は、2020年11月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、約20名の関係者のみで2,000本を植樹しました。3回目の植樹は、本年11月に予定しています。



浦安市 (2015年)



千葉市 富田都市農業交流センター (2016年)



千葉市 泉自然公園 (2018年)



九十九里浜 (2019年)